

平成28年度 学校評価 児童アンケート(まとめ)

	質問事項	評価4	3	2	1
1	学校は楽しいですか	楽しい	まあまあ 楽しい	あまり 楽しくない	楽しくない
		70%	26%	3%	1%
2	勉強(授業)は楽しいですか	楽しい	まあまあ 楽しい	あまり 楽しくない	楽しくない
		67%	29%	3%	1%
3	勉強(授業)で困っていることはありませんか	ない		ある	
		74%		26%	
3	<児童の記述より> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強(国語・漢字・算数・英語・宿題など)が難しい。 ・学習のペースがみんなより遅れることがある。 ・算数の文章題の意味がわからない時がある。 ・英語で分からないときがある。「ちょっと待って！」が言えない。 ・初めて習う問題が難しくなってきた。 ・多読のやりきりが大変である。 ・国語で文章をどう書いてよいかわからない時がある。 				
4	約束やマナーを守って生活していますか	いつも守る	ときどき 守れない	守れないこと がよくある	守れない 忘れる
		33%	58%	8%	1%
5	何にでも精一杯取り組んでいますか	いつもできる	ときどき できない	できないとき がよくある	できない
		62%	32%	5%	1%
6	友達と楽しく過ごしていますか	楽しい	まあまあ 楽しい	あまり 楽しくない	楽しくない
		74%	22%	3%	1%
7	友達のことで困っていることはありませんか	ない		ある	
		73%		27%	
7	<児童の記述より> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間に入れてくれない友達がいる。 ・友達のことを思って手伝うと、怒ってくる子がいる。 ・すぐに注意してくる子がいる。 ・強い言葉で言ってきたり、いやなことを言ってきたりする子がいる。 ・うまく思いを伝えられないときがある。自分が人を困らせている気がする。 ・注意をしてもなかなか聞いてくれない子がいる。 ・ちょっかいをかけてこられる。けんかになる。 ・汚い言葉を使って喜んでいる子がいる。 ・仲間に入れてくれない子がいるし、視線が怖いときがある。 ・友達の取り合いになる。相手によって接し方が違う子がいる。 				

平成28年度 学校評価 保護者アンケート(まとめ)

＜教育全般に関わって＞

	評価項目	%			
		4	3	2	1
1	「本校教育方針 (Teikyo Spirit)」に基づき、保護者の皆様の期待に沿う教育がなされているか	38%	52%	9%	1%
2	子どもたちは学校生活を楽しんでいるか	66%	26%	7%	1%
3	本校教職員は、情熱を持って指導にあたっているか	58%	37%	5%	

【成果】

- ・ Teikyo Spiritはとてもわかりやすく（親子共々）、子どもの生活面においても学習面においても隅々まで反映されており、安心感がある。学校の考え方に大変共感している。
- ・ 中学校・高等学校に進むに当たり、不透明なところがあったが、12年一貫教育システムの説明を中学校学校説明会で聞き、先生たちも学校全体も努力していることがわかってきた。あとは中高の先生に期待する。
- ・ 様々なカリキュラム（イングリッシュディ・英語学習、100冊読書、先取り学習等）、体験的な学習（ぼうけん）やはっけんなどを通し、児童の関心・知的好奇心が育っている。
- ・ 学校へ行くのが楽しい。学校に行きたいと常に子どもが言っていて満足だ。
- ・ 子どもが着実に自律・自立していく姿を感じられ、頼もしく思う。
- ・ どの先生もとても明るく、会ったときは必ず笑顔で声をかけてもらうなど嬉しく思う。
- ・ できないことや苦手なことでも先生方や仲間が最後まで寄り沿って励まし、見守ってくれている。
- ・ 学校全体を見ても、きちんとした児童が多く、学校全体にきりっとした空気があり、とてもよい。勉強だけでなく、スポーツや生活面でもよく指導されている。
- ・ 子ども達は仲がよく、互いに認め合い、慈しみ合う姿や気持ちが会話から伝わってくる。友達と切磋琢磨する様子もうかがえ、課題を達成するごとに成長する子どもの姿が見られる。
- ・ どの先生も熱意をもって子どもたち一人一人に丁寧に向き合って指導してもらい、ありがたい。子どもの良さを引き出し伸ばしてもらっていることに感謝している。
- ・ 先生方は普段と様子の違う子どもにすぐ気付き、声をかけてくれている。家庭への連絡もすぐにもらい、子どもの様子をすぐ知ることができとてもありがたく思っている。
- ・ 学校全体が一丸となって取り組んでいる感が伝わっており、安心している。

【課題】

- ・ 先生によって情熱や教育に対するの差があり、教育方針の達成度にばらつきがある。
→平成28年度は、従来の研修に加えてさらに研修を積み重ねています。職員が情熱をもってどの子にも同じように対応できるように努めます。
- ・ 世界を視野に入れることのできるような人間形成を学校に求める。具体的には英語会話、思考力を高める教育の強化を望む。
→本校のTeikyo Spiritそのものですので、12年一貫を見通して計画的に推進します。
- ・ 5年生からの夏休みなどの長期休暇は、預かりがあるのかないのか、はっきりとした文書等がない。昨今の不審者などに対して安心して、保護者が働ける環境・安心して子どもが過ごせる環境のためにも文章で回答がほしい。
→今までもご希望される方には個別対応をしておりましたが、平成29年度からは5年、6年生全員に案内を出します。希望者には安心して長期期間を過ごしていただきます。ただし、従来のSSのカリキュラムで運営をします。
- ・ 学習面の充実素晴らしいが、体育面で不安がある。毎朝、体操をするとか散歩をするなどはどうか。公立に比べ運動量が少ないのが気になる。
→運動量確保に関しては、体育の授業における確実な運動量の確保・選択体育の実施、休み時間における縄跳びなど運動の習慣化に努めています。
- ・ 先生方の熱意を感じて大変感謝している。保護者の顔色や噂話を気にしすぎるあまり、本来の学校方針を貫けなくブレているところが残念だ。保護者よりももっと児童一人一人をしっかりと見てほしい。
→保護者の皆様の貴重なご意見は真摯に承りながら、学校としての方針を堅持しつつ、お子さんを軸に考えた対応を進めます。

<学習・授業に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
4	個に応じた、ていねいで細やかな指導がなされているか	49%	38%	13%	
5	子どものやる気を引き出す指導や授業の工夫がなされているか	46%	44%	10%	
6	力をつけるための指導方法、教材の選定がなされているか	36%	50%	13%	1%

【成果】

- ・本人のやる気をうまく引き出してもらい、細やかな工夫がされている。授業、宿題、テストなど、子ども自ら取り組めている。数年後を見据えた教え方で指導をしてもらっている。
- ・100冊読書、読書週間、漢字検定、百人一首、お茶、パソコン等、子どもの興味や競争心・やる気を上手に引き出している。
- ・担任の先生、学年主任の先生、教科担任の先生方が大変、熱心に指導をしていると感じている。また、教材も適度に難しく、子どものやる気を引き出している。
- ・自ら自主性をもって、計画を上手に立て、達成した喜びを感じさせるシステムはとてもすごい。
- ・学習に関しては子どもがわからないところはわかるまで教えてくれ、ありがたい。
- ・メディアルームの活用やICT教育等、視野を広げられる指導がされている。
- ・補習や昼休み等、時間を作って指導してもらうのは大変助かる。
- ・教科担任・習熟度別の授業などとてもよいと思う。理解に差があってもフォローできている。

【課題】

- ・授業では個に応じているとは思わない。宿題や選定教材を用い、自主学習の中において難易度の高いもので挑戦させることが大切。塾に行かなくても大丈夫という入学時の言葉を実行してほしい。
→本人の意欲をいっそう喚起する個に応じた指導をさらに推進します。また、12年一貫を見通した指導を中高と検討しながら進めていきます。
- ・期末テスト結果がクラスの子と比べてどうなのか、不安なので理科や社会のテストでも平均点がわかるとありがたい。
→算数・国語以外においても客観的に判断できるように努めます。ただ、その子にとっての伸びを学校と家庭で連携して確認しつつ、応援していく態勢を大切にします。
- ・我が子へのフォローに関しては、感謝している。よくできる子を伸ばすことにいっそう力を入れてほしい。漢検、数検など、どんどん表彰して切磋琢磨する雰囲気はいっそう高めてほしい。
→漢検、英検等、子どもたちは自分の力を確かめようと一生懸命に取り組んでいます。その姿お互いが応援し、喜び合う雰囲気が育っています。力を伸ばす機会を今後も多く設けていきます。
- ・日々の宿題や課題をしない、期限も守らない子がいると聞いている。ルールを守るのが基本である。そうした子どもへの対応も統一して子どもを伸ばしてほしい。
→現象だけにとらわれることなく、原因を家庭との連携で解消する方向で、個に応じた指導・対応にいっそう努めます。
- ・力をつけるための指導方法を具体的に親が見える形で証明してほしい。
→授業参観後の学級懇談会での話し合い、個々の児童の対応など、担任との日頃の確認をお願いします。
- ・きめ細かく対応してもらい、基礎学力はしっかりと定着していると感じている。前の単元の学習が短期記憶でなく、長期記憶としてしっかりと定着できるようにサポートしてほしい。たくさん宿題を出している割には基礎力が身につけていない。予習・復習をうまく取り入れて進めてほしい。
→基礎力は繰り返し繰り返し、取り組んでいくことで、確実に身につけてきます。問題をこなすのではなく、問題で力を確認するという姿勢をいっそう身につけさせていきます。
- ・英検など合格しても、書けないことが気になる。
→英検に合格していることがとても素晴らしいことです。12年一貫を見通して計画的に書く力をつけていきます。
- ・学年によって担当する先生によって宿題をはじめ、学習に対する基本的な考え方や進め方が異なるように感じる。どの学力をめざし指導しているかがよくわからない。
→職員一丸となって取り組めるように、学習指導委員会を通して、共通理解・共通行動に努めます。

<心の教育・生徒指導に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
7	あいさつや言葉遣い、マナーなどの指導は適切であるか	50%	43%	7%	
8	思いやりの心を育てる指導に努めているか	54%	41%	4%	1%
9	友達との関わり方の指導や、問題行動に対する対処の方法は適切であったか	44%	47%	9%	

【成果】

- ・挨拶はしっかりできるようになった。学校生活や先生方の指導によるものと感じている。
- ・挨拶、礼儀、生活指導どれをとっても満足。よい状態を継続してほしい。
- ・友達のことを「さん」付けで呼ぶこともとてもよい。言葉遣いも目上の人に対してきちんと話そうとしていて素晴らしい。
- ・いつもクラスの子と仲良く過ごしている。トラブル対応も早く、必ず子どもの気持ちを大切に解決に導いてくれ、フォローもあり安心している。
- ・「よいところ見つけ」の取り組みはとてもよい。我が子も友達のよいところを見つける癖ができたようだ。積極的によいところを見つけている。いじめもなく子ども同士も個人として「さん」付けだったりして、人権尊重が大切にされている。
- ・的確な指示や指導で、子どもが戸惑うことなく自ら考えて行動できる場面が家でも増えてきた。
- ・バスでの添乗員さんへの態度・トラブルなど、問題が起こったことを周囲と共有できることは大変よい。これは社会に出てから大事なので、厳しくしてほしい。

【課題】

- ・教職員で方言を学校で使うのを止めてほしい。世界に渡る仕事に就く子もいる。
→教師そのものが言語環境と言っても過言ではありません。方言だけでなく、若者言葉など学校教育にふさわしくない言葉を使用しないように、一人一人がいっそう努めます。
- ・高学年になるにつれ、挨拶がきちんとできる子が少なくなってきたように見受けられる。子どもだけでなく、親同士もきちんと挨拶ができるといいなあと思う。
→子どもたちは意識によってずいぶん姿が移り変わります。人として必要なこととして取り組める心をいっそう育てます。いろいろな場で教師・保護者がお手本となって示していきましょう。
- ・心の教育は集団でするものと個人でするとよいもの、家庭でするとよいもの、などいろいろある。学校教育にとどまらず、家庭教育の大切さを親に伝えていってはどうか。
→校報で、子どもたちの姿を紹介しながら考えていただける場を設けています。また、学級懇談会や日々の担任と保護者の連絡で子どもの姿を通じて、今後も家庭教育の大切さを確認します。
- ・高学年になるにつれ、気をつけることが多くなる。スカート丈など制服の乱れも見受けられる。
→制服に関しては、子どもたちの成長に応じた様子がはっきりしてきましたので、規定を再度確認して対応します。
- ・心の教育に関しては目に見えないところがある。スクールカウンセラーがいるとよい。
→スクールカウンセラーは、小中高兼任で小学校にも勤務しております。お子さんのみならず、保護者で対応をご希望の方も対応します。
- ・保護者懇談会が夏休みに1回あるが、2学期末から3学期にかけてもう1度あるとよい。その後の様子を知りたい。
→日程的に設定できない状況です。少人数の学級ですので、個別に対応ができます。
- ・先生の見ていないところで、他人に汚い言葉を言う人が前より増えた。もう少し指導をしてほしい。
→よりよい言葉遣いの指導は言うまでもありませんが、「誇れるわたし」として自信をもって行動できるように、意図的に自分のよさを自覚させるいろいろな取り組みを行っています。自分が素晴らしいとわかる時、自ずから友達も大切にできるからです。
- ・学校を先生が辞めるのが突然すぎて、ショックを受けている。前もって保護者にきちっと説明をすべきだ。
→それぞれに事情があって職を離れます。どの職場も事前にお知らせすることはないと思います。
- ・帝京大学可児小学校は被害者には連絡するが、加害者の保護者には連絡をしていないのではないかと学校の対応を確認したい。
→被害者、加害者共に納得がいくように本人への指導、保護者への連絡・協力に努めています。上述のようなことがないように、生徒指導の基本理解をいっそう進めます。

<学校行事・家庭との連携・学校環境に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
10	家庭との連携は十分なされていたか	50%	46%	3%	1%
11	学校行事・学年行事の内容や回数は適切であったか	37%	53%	9%	1%
12	安全で美しい学習環境になっているか	73%	25%	2%	

【成果】

- ・何かあったとき、なくても些細な出来事もしっかりと担任から電話や書面で連絡があり、こちらからの問い合わせにも応じてもらい満足だ。休んだときもその分を補ってもらい、安心できた。
- ・担任をはじめ帝京大学可児小学校の先生は、行事等で会うと、子どもの様子を丁寧に話すなど、子どもをよく見てもらっていると感じる。
- ・行事や学年行事・参観日の内容・回数とも適切であった。
- ・とてもすてきな学校である。行事では毎回楽しませてもらっている。
- ・キラキラ参観日はとてもありがたい。仕事もあるため時間が調整できる。
- ・校報、学年よりの行事・その他のお便りで学校としての考え方や目指していきたいことが伝わるので、親としても対応しやすい。
- ・子どもたちがのびのびと気持ちよく集中して取り組める学習の環境にも満足している。
- ・授業で作成した作品がいつも校内にきれいに展示してある。

【課題】

- ・公立のようなPTA活動がないので、他の保護者との関わりが少ない。母親（父親）の会等を作り、気楽に交流したり学校に貢献したりする活動ができたらと思う。
→家庭教育学級といった組織を立ち上げることも考えられます。後援会で検討をします。
- ・連絡帳に書いても伝わっていないことがある。ミスプリントが多い。
→保護者との連携を職員一同、いっそう意識して取り組みます。校外に出ていくプリントに関しては、確認をします。
- ・学校で何かが起こっているとき、当事者及びその保護者への連絡は適切にできているのか。
→事故やけが等、家庭との連携を大切にして連絡に努めています。いっそう、保護者の立場で対応します。
- ・土曜日の行事をさらに増やしてほしい。参観日はできたら土曜日にしてほしい。
→平成29年度は、12月以外は参観日は土曜日です。キラキラ参観日は、自由参観日なので平日に設定してあります。また、午後のご希望がありましたが、スクールバスや駐車場（中高と駐車場は兼用）の関係で午前としました。土曜日は、中高の行事・部活等の関係で容易には設定できない状況です。
- ・スポーツ大会について、学校の考え方がわからない。小学生なので小学生らしく盛り上げてほしい。
- ・スポーツ大会での観覧場所を遊具の方まで広げてほしい。
- ・スポーツ大会での親のマナーが気になる。
→スポーツ大会は、いわゆる運動会ではなく、体育学習の発表会として位置づけています。観客席に関しては、現在の敷地内で可能かどうかの検討をします。保護者マナーに関しては、子どもたちのお手本になるように一人一人が意識することが大切だと考えます。
- ・平日の親子下校は、下の兄弟の迎えと重なったりすることもあり、2便での下校ができる状態ならば、あえて親子下校としなくてもよいのではないかと。
→ご指摘のとおり、2便で下校が可能ならばそうした対応をします。
- ・学校の行事の予定が出される前に、仕事の予定を入れる。年間予定に詳しく入らないのか。
→年間計画の作成は、中高との綿密な打ち合わせの元に行っています。その後、入ってくるものを極力少なくするように努めても変更が出ることもあります。したがって、詳細を入れた年間計画作成は難しい状況です。

その他 [S U T ・ スクールバス等]

【成果】

- ・ S U T は先生の指導により楽しく勝つ有意義な時間を過ごしている。
- ・ I L T は、授業で自主性ができていて周囲の雰囲気、先生の見守りでとてもよい時間を過ごしている。
- ・ バスの添乗員・運転手は、明るく接してくれ、毎日楽しく乗せてもらっている。
- ・ 1 便、2 便と希望で乗れるようになったことは非常にありがたい。
- ・ 「帝京の子」2 3 号でバスのことについてのお知らせを見て、今までになくきちんとした指導があったので、とてもよい。マナーのお便りをもらってからは落ち着いている。

【課題】

- ・ S U T の先生がこわいといっていました、今はなんともないよと楽しく過ごしている。
- ・ S U T の指導・対応の実態把握と改善を望む。
 - 4 月当初、新入生にとっての約束づくりにおいて、真新しい環境で、学級でもないということで不安定になることもあります。S U T 職員は、一人一人の子どもに丁寧に対応する、全体の子がルールを守って行動できるように指導するという面で今後いっそう努力します。
- ・ I L T (5・6 年) になっても、スイミング・そろばんなどをうけられるとよい。
 - S U T に参加する児童の数、対応する職員数という面で実施は難しい状況です。
- ・ バスの会を保護者も入れて行ってほしい。保護者同士の理解も必要だ。
 - 平成 2 9 年度から年度初めに保護者も交えてバス会を行います。
- ・ バスがコンビニ等の駐車場で止まる場合は許可を得ているのだろうか。店から叱られた保護者もいると聞く。
 - バス会社には、一応許可は得ていると聞いています。保護者の皆様もお世話になっているという姿勢で利用していただけたらと考えます。
- ・ 毎週決まった曜日の場合は行きと帰りでバスのコースや乗車場所の変更が可能だとよい。
 - 年度初めに限って個別対応が可能ならば対応しておりますので、早めにご相談ください
- ・ スクールバスのルートについて納得のいく回答が出ていません。遠くから来ている J R 利用者を優先するなど温かい配慮がほしい。
 - バスのルート・時間・停車位置等について大変心配をおかけしております。バス会社との連携の元に、より利用しやすいように今後も進めます。
- ・ バスで疲れがたまって眠っていきたくもうるさくて眠れないときもあるようだ。シェアーを考えてほしい。
 - バスでのルールも、学校・家庭・バス添乗員等の連携指導により、守れるようになってきました。今後も、児童の意識を高める中で過ごしやすい環境を作っていきます。
- ・ 制服をもう少し買いやすくしてほしい。多治見三越は平日の 1 7 時までなので困る。
 - 多治見三越は、1 8 時まで営業をしています。採寸等は普段は名古屋三越を利用いただくと土・日でも対応していただけます。
- ・ 期末テストにおいて差が大きくなっている。塾に行かないと点数がとれないとか、親がしっかりと見ないと点数がとれないということでは不安だ。
 - 1 2 年一貫を見通して計画的に授業を進めています。1 年生からの積み重ねが高学年になればなるほど大きく影響してきます。塾に行くというのも一つの方法ですが、学校で与えられた課題を楽しく確実にこなしていくことが解決策と考えます。現在の姿で不安な場合は、担任と連携をとっていただき、課題の見届けを確実にやっていくことが大切だと考えます。また、4 年生以降は必要に応じて補習を行っています。

平成28年度 学校評価 教職員アンケート(まとめ)

＜教育全般に関わって＞

	評価項目	%			
		4	3	2	1
1	「Teikyo Spirit」を常に意識・理解して指導にあたれたか。	17%	79%	4%	
2	学年主任を中心として、連絡を取り合い相談しながら 同歩調で指導を進めたか。	22%	61%	17%	
3	本校独自の指導体制（2人担任制・教科担任制）を活かし、子どもに力をつける指導に努めたか。	35%	56%	9%	
4	子どもたちは、粘り強く取り組む子に育ってきているか。	26%	70%	4%	
5	子どもたちは、互いのよさを見つけ合い、認め合っているか。	52%	39%	9%	
6	子どもたちは、「誇れるわたし」を意識して活動しているか。	26%	57%	17%	
7	学年・学級目標を意識した指導に努めたか。	35%	61%	4%	

成果

- ・「Teikyo Spirit」, 「誇れるわたし」をキーワードとして、子どもたちにとっても教師にとっても目指すものが共通理解されていて、常に意識して取り組めた。
- ・粘り強さには個人差があるが、ほとんどの子がお互いを認め合っている。
- ・初任者研修の時間を作ってもらい、細かく丁寧に子どもの姿を通して指導してもらえた。
- ・二人担任制で、将来を考えた指導・教材研究の時間確保・余裕のある時間の確保など感謝している。二人担任制をうまく生かすことができ、子どもたちの成長が目に見えてわかるようになってきた。
- ・学年会を充実させることで、皆が方向性を共通理解し、子どもに当たることができた。
- ・学年集会を開くなどして、学年目標に向けて適した姿を確認して指導することができた。
- ・子どもたちは些細なけんかはあるものの、お互いを励まし合って学校生活を送っている。元気に毎日登校してくれるので、嬉しい。
- ・学年目標や「誇れるわたし」をキーワードにして、子どもに意識付けができた。
- ・帰りの会では、学級の中であったよさが毎日出てくる。また、自分の誇りを見つけさせ、掲示していく取り組みを行っているため、「誇れるわたし」を意識できている。
- ・毎日の打ち合わせを学年で大切にしていって、子どもへの共通指導を心がけることができた。
- ・常に朝の会や帰りの会で、自分の目標に対して言葉で振り返らせたり仲間と共有したり、個人で、集団で何を頑張っているのかを共通確認した。
- ・自己肯定感や「誇り」を意識した指導が定着しつつある。

課題

- ・学年同歩調に努めてきたが、スタッフの経験年数の関係からスムーズに動けなかったこともある。授業の進め方など、さらに共通理解を進めたい。
- ・「誇れるわたし」に関して、低学年児童は根本的なことがわからずやっているのだから、学年・学級目標から何が今、子どもたちに必要なのか考えて具体的な姿で指導をしたい。
- ・簡単な学年会を毎日開くなどして、こまめにクラスのことを確認しておけばさらによかった。
- ・「誇れるわたし」とは、どんなものかを日々考え、高めていくことが重要であり、この点をいっそう努力したい。
- ・職員は皆一生懸命取り組んでいるが、私立としての独自色をさらに出していきたい。
- ・よいこと見つけカードを継続して活用できるように、児童への働きかけを続けていく。
- ・教科担任制となり、学級や学年の行き来が多くなったことで、子どもの細かい把握をいっそう意識する必要が出てきた。また、教師間での情報交流がいっそう大切になると感じている。
- ・「誇れるわたし」の個の意識はまだまだ弱いと思う。目標のあり方、それに対する振り返りなどを工夫して自分の伸びを意識させたい。

<学習・授業に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
8	教材研究・自己研鑽に励み、よく分かる授業づくりに努めたか。	39%	52%	9%	
9	個に合ったいいいで細やかな指導・支援に心がけたか。	39%	44%	17%	
10	よさを引き出し、活かす指導に努めたか。	35%	52%	13%	
11	力をつけるための指導計画、教材・補助教材の選定、教具の工夫ができたか。	30%	57%	13%	
12	子どもたちに、確かな学力がついてきているか。	26%	61%	13%	
13	子どもたちは、興味関心をもって授業に取り組んでいるか。	52%	39%	9%	
14	研究主題を意識した実践に取り組めたか。	39%	48%	13%	

成果

- ・ どの子どもも意欲的に授業に取り組む。
- ・ 学力差があるので、個別対応も大切にしている。
- ・ 外部講師の奥山先生の指導の下、オリジナルの授業を経験し、教師側の発問や場面ごとの声かけの重要性を改めて認識できた。
- ・ 研究会での話題を意識して、実践に取り入れることができている。
- ・ いずれの組も授業研究会での授業公開をしたこともあり、教材研究ができた。学年会を中心として単元ごとに見通しを立てたり教科ごとに担当を決め、教材研究をした。書画カメラやiPad、デジタル教科書も効果的に活用できた。
- ・ 個々の躓きを発見したときや多少の遅れなどの連絡が必要と思われた場合、具体的な改善方法など個別に連絡したり個に応じた指導に心がけることができた。
- ・ 5年生英語基礎は、子どもたちの様子がかかなりよくなり、英語に対する苦手意識が少しずつ薄れてきたように感じる。今後も実態に即した実践に努めたい。
- ・ 学習エンジンをいかにかけ、単元を貫くための工夫をどのように仕組みでいくかを常に考えて授業づくりを行ってきた。
- ・ 子ども同士の学び合い、深め合いを授業の中に取り入れるように心がけてきた。
- ・ 単元計画を必ず指導しやすいように改善し、単元のねらいを見通した1時間1時間の授業づくりをすることができた。
- ・ ヒントカードなどで、支援に関わる部分を丁寧に指導することができた。
- ・ 思考力を大切にして、比較による課題づくりを毎日している。
- ・ 指導方法、指導体制を毎年、学年が進むにつれて修正をしながら実施し、よりよい授業が計画的にできるように努力している。
- ・ 探究型授業のノウハウを生かした授業づくりが普段の授業の中でも見られるようになっている。

課題

- ・ 研究主題に関わる表現力という意味で、まだまだ身につけさせる工夫がいる。
- ・ 教材準備のための時間確保が難しく、やや仕事が煩雑になった。中学年以上になると子どもに自由な時間がかなり少なくなり、それに加えてやりきらせないといけないが増えるので、とても大変であった。子どもたちと向き合えない時があったのが残念であった。
- ・ ITを活用しての授業をもっと取り入れていきたい。
- ・ 学力差が大きい学年なので、より個に応じた指導が必要かと思う。下支えに意識がいきがちで上の伸ばしが弱くなっている。それが保護者にとっては不満となっている。授業の中で全員が満足いくような展開や活動をどう仕組むかを考える必要がある。
- ・ 最低限、そろえるべき学習規律、特に黙って挙手、指名されたときの返事や聞き方、話し方の定着がまだまだ努力がいる。多くの学級で、子どもたちは教師に向かって話していることがまだある。
- ・ 1単位時間に指導を仕切って習熟を徹底させたい。その上で、家庭での学習を確かなものにした。

<生活に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
15	基本的な生活習慣（あいさつ・マナー等）の徹底指導に心がけたか。	57%	34%	9%	
16	活動の安全確保に努めたか。	61%	35%	4%	
17	子どもたちは、ていねいなあいさつや言動ができていますか。	4%	70%	26%	

成果

- ・挨拶・マナーについてはこだわって指導ができ、しっかりと身につけてきている。
- ・挨拶はどの子どもも大きな声でしっかりできている。言葉遣いもほとんどの子どもが丁寧な言葉遣いできている。
- ・挨拶・マナーについて朝の会、帰りの会で意図的に話したりその都度、話したりするように努めた。
- ・基本的な生活習慣や安全確保はかなり徹底指導することができた。
- ・子どもたちに対しては厳しいけれども、愛情をもって対応しているつもりである。厳しく指導するときには、先ず、その子の気持ちを受け入れ理解を示してから指導し、叱った日は必ずフォローしたり家庭連絡をしたりして心に落ちるように気をつけた。
- ・大きなけがもなく活動が行えている。
- ・中学年になっていろいろな言葉を覚えてきたので、「使い方」の指導をしっかりとしていきたい。
- ・挨拶・廊下歩行など低学年に見られても恥ずかしくない「誇れるわたし」を意識して生活できている。
- ・身の回りの整理整頓、給食後の箸・スプーン・器の返却の位置、ぞうきんのかけ方、机の配置など、「整える」ということを意識し、子どもたち自身で整えるようになってきたことを認め、褒めることを常に行ってきた。
- ・丁寧な挨拶や言動が年々よくなってきていると感じる。委員会活動が始まり、生活指導に子どもたちが主体的に関われる面が出てきたことも意識化につながり結果を出していると思う。
- ・今年は意図的にバス指導ができ、今後の子どもたちのモラル定着に見通しがもてるようになった。

課題

- ・生活指導は日頃行っているが、まだまだ全体に定着し切れていないところがある。
- ・大多数の子どもは意識できているが、休み時間などになると、一部の子どもで気持ちが緩んでしまう。
- ・安全確保には常に努めているが、思いもよらないことでけがにつながってしまったことがあった。
- ・子どもたちの言動は、まだまだ指導があるので継続して指導したい。
- ・思春期に入った子どももいて、たまに汚い言葉を教師がいない場で使う子どもが出てきた。素晴らしい姿の子どもがほとんどなので、その姿をキープして高めていきたい。
- ・廊下歩行については改善された。しかし、職員に温度差があり、もう少し共通理解・共通行動が必要かと思う。
- ・挨拶やマナーについては、もう少しこだわる必要がある。
- ・高学年となりいろいろな部分が粗雑となってきた。意味指導を行ってきたが、ルールに対する反発等、なかなか徹底ができなかった。家庭と連携して根気強く指導をしたい。
- ・高学年になると、挨拶・言葉遣いなど、だんだん乱れを感じる。注意をしてもなかなか直らない現状がある。時と場に応じた振る舞いができる子どもに指導していきたい。
- ・第2ステージでの指導を、中学校への移行を見据えて適切に行う必要があり、意識を高めていきたい。
- ・委員会活動が始まり、生活指導に子どもたちが主体的に関われる面が出てきたことも意識化につながり結果を出していると思うが、さらに、取り組み期間だけでにとどまらず、定着させるようにしたい。

<心の指導に関わって>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
18	どの子にも分けへだてなく、愛情あふれる対応に心がけたか。	82%	9%	9%	
19	個に応じた教育相談活動ができたか。	39%	48%	13%	
20	子どもたちは、温かい思いやりのある子に育ってきているか。	35%	61%	4%	

成果

- ・優しい子が多い。
- ・トラブルになりやすい子など、一人一人にあった対応をしている。
- ・どの子にも分け隔てなく接することができた。家庭的に満たされていない子への接し方も配慮した。
- ・子どもたちを褒めて伸ばすことができた。気になる子には毎日よかったことを見つけ、呼んで褒めることで、だんだん変わっていく姿が見られた。今後もたくさん認め伸ばしたい。
- ・子どものよいことを見つけたら名簿にメモし、必ず褒めるようにした。
- ・人権週間では、一人一人と食事をして話すなどして、よく話を聞くことができた。
- ・ちょっとした時間に子どもと話す、外で一緒に遊ぶを繰り返しているうちに、今日は元気がないなどとわかるようになり、個別で話を聞くこともできた。
- ・毎日子どもたちと語り合うことを大切にしてきた。給食を共に食べながら困っていること・つらかったこと・今悩んでいることなどの話を聞くように努めた。その中からでてきたことを子ども同士で語り合える時間をつくり、子ども同士で解決していく糸口をもつように心がけた。
- ・こまめに保護者に報告するなど、連携をとって子どもに関わることができた。
- ・3項目とも担当指導部、担当者が主体的に動き、積極的な指導に転換されつつある。

課題

- ・経験不足から興奮してしまった子への対応がうまくできない場面があったので、対応の仕方を勉強する機会がほしい。→事例研究や対応指導の研修会を位置づけていきます。
- ・Q-Uの結果は決してよいものではなく、さらに留意する必要があると感じた。1日の大半を学校で過ごすので、もう少しアンテナをはって、声がけ、支援をして見ていかなければならない児童もいる。また、保護者にももっと綿密に学校の様子を伝えていきたい。
- ・子どものよいことを見つけたら必ず褒めるようにしたが、片寄って褒めることも生じた。
- ・大人の振る舞いで子どもの様子が大きく変わるので、子どもを指導する際は、言動に十分に気をつけたい。
- ・10分休みに子どもともっともっと話をしたいと思ったが、なかなか時間がとれなかった。他学年への授業があるときには、給食時間など、工夫が必要と感じた。
- ・教育相談については、カウンセラーや中高との連携調整があるので、早めかつ確実に教育相談主任に連絡を集約するようにしたい。

<その他>

	評価項目	%			
		4	3	2	1
21	子どもたちは、学校生活を楽しんでいるか。	61%	35%	4%	
22	家庭への連絡は、よい面を含め小まめにできたか。	35%	43%	22%	
23	学校行事、学年行事の回数は適切か。	26%	52%	22%	